

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名 西堀 泰英 (Nishihori Yasuhide)

論 文 題 目

自動運転に対する市民の受容性に関する研究

(A Study on Citizens' Acceptability of Autonomous Vehicles)

論文審査担当者

主査 名古屋大学未来社会創造機構 教授 森川 高行

委員 名古屋大学大学院環境学研究科 教授 加藤 博和

委員 名古屋大学未来材料・システム研究所 教授 山本 俊行

論文審査の結果の要旨

西堀泰英君の論文「自動運転に対する市民の受容性に関する研究 (A Study on Citizens' Acceptability of Autonomous Vehicles)」は、都市や交通に関わる様々な問題に対する解決策のひとつとして期待されている自動運転に対して、社会に導入するための課題である社会受容性に着目し、この社会受容性を自動運転の実現に対する賛否意識として捉え、その実態や影響要因を様々な対象者のデータ分析を通じて明らかにしたものである。研究成果の概要は以下の通りである。

まず、自動運転が都市や交通の問題解決にどのように貢献するのかを示したうえで、自動運転の実現に向けた動向を整理するとともに、自動運転の社会への導入に向けては社会受容性の醸成が重要であることを示している。

そして、社会心理学や自動運転に関する分野における社会受容性の考え方を概観し、単一指標で把握することが困難な社会受容性の評価指標として、賛否意識を用いることを説明している。さらに、既往研究を整理しつつ、それらを踏まえて本論文の特徴を示している。

自動車利用者に対する意識調査データの分析結果からは、自動運転に対する心配を抱きながらも賛成する群が存在するなど、自動運転の実現に対する賛否意識にも様々なものがあることを示すとともに、その特徴を明らかにすることで、自動運転の実現に対する賛否意識に関する基本的な理解につながる知見を得ている。

日本国内で行われた自動運転に関する 8 種類の意識調査データ約 20,300 件を収集・統合して行ったメタ分析の結果からは、賛否意識への影響要因として、影響の大きい順に、利用意向、自動運転の社会実験に対する認知レベル、居住地の人口密度、自動運転に対するリスク認知、性別であることを明らかにしている。賛否意識が居住地域の環境に影響され得ることを示したことで、実証実験の実施地域や初期の自動運転移動サービスの導入地域を検討する上で参考となる知見を得ている。

自動運転の実証実験参加者に対する意識調査結果を用いた分析のうち、自動運転移動サービスの利用意向に着目した分析結果からは、利用意向には年齢や世帯構成、試乗時に危険を感じた経験の有無などが影響することを明らかにしている。

さらに、試乗体験による賛否意識の変化に着目した分析結果からは、賛否意識は試乗体験後に賛成側に変化することや、試乗時の乗り心地に違和感がある場合には自動運転等の認知度が低い人は賛否意識が下がる方向に作用するが、認知度が高い人には作用しないことを明らかにしている。

以上のように本論文は、自動運転の実現に対する賛否意識に関する理解を深めるための重要な知見を提供している。これらの成果は、自動運転の社会受容性の調査結果の理解や、自動運転の導入を検討するうえで重要である。よって、提出者である西堀泰英君は博士（工学）の学位を受けるに十分な資格があると判断した。